



発行日：令和3年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第56回川部会WGを開催しました！

6月22日（火）、第56回川部会WGを、新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。今回のWGでは、活動進捗の報告と今年度の活動目標、バスツアーの内容、公開講座について協議を行いました。また、時瀬地区の置土実験、矢作川水系流域治水プロジェクトについて協議を行いました。



日時：令和3年6月22日（火）13:30～16:45

会議場所：豊田市崇化館交流館4階 第2会議室

参加者：18名（内オンライン参加6名）※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 令和3年度の矢作川流域圏懇談会の開催方針

緊急事態宣言発出期間（まん延防止等重点措置発出期間を含む）中の開催方針、平常時の開催方針について事務局より説明がありました。今回のWGは、対面形式の人数を最小限とし、オンライン会議に重点を置いた方式で実施しました。

2. 矢作川流域圏懇談会について（設立要旨・規約）

今年度最初のWGであることから、矢作川流域圏懇談会の設立要旨・規約等について確認を行いました。

3. 令和2年度までの活動進捗報告・今年度の川部会の活動目標

令和2年度のテーマ「上下流問題」の①本川モデル ②支川モデル、「地先の問題」の③地域連携モデルについて、活動進捗の報告を行いました。令和3年度は、地域連携モデルの取組として、新たに「外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携」についても取り組んでいくことを目標に加えました。

4. バスツアーの内容について

11月25・26日に実施予定のバスツアーの内容、工程について確認と協議を行いました。川部会では、現計画を基本としながら、置土実験実施箇所や鵜の首狭窄部改修場所などの候補地についても今後のWGで再検討していきます。

5. マイクロプラスチック公開講座について

7月31日開催予定のマイクロプラスチック公開講座の内容について事務局から説明がありました。マイクロプラスチックは、川ごみの問題に直結することから、広報の方法、講座後の取り組みなどについて話し合いました。

6. 時瀬地区における置土実験について

令和3年に実施した時瀬地区での置土実験について、実験の目的・方法、実施状況、今後の予定等について事務局から説明がありました。

- ◆実験の目的：将来の矢作ダム堆砂対策実施時に近い状況を創出し、下流河川環境への影響を確認・把握する。
- ◆実験の方法：時瀬河川敷公園前の河川区域内の河原に土砂を置き、洪水時に自然流下させる。効果や影響を確認・把握するため、置土の前後での物理環境調査や生物環境調査を実施する。
- ◆実施状況：令和3年3月に置土（約4,000m³）を設置。5月の出水により置土全量が流下した。物理環境調査は、河床材の調査、ドローンによる測量を実施した。生物環境調査では、魚類・付着藻類・底生動物の調査を実施した。
- ◆今後の予定：次年度以降も徐々に土砂量を増やしながらか時瀬河川敷公園前にて置土実験を実施する。また、他の箇所における置土実験も検討する。

7. 矢作川水系流域治水プロジェクトについて

国土交通省が推進している「矢作川水系流域治水プロジェクト」について、事務局より説明がありました。本プロジェクトでは、事業を「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」「被害対象を減少させるための対策」「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」の3つのカテゴリーに分け、国・県・市町が一体となって流域治水を推進していきます。

8. 第11回「魚のすめる水路を作ろう」計画に参加して

矢作川環境技術研究会の野田賢司氏より、支川モデルの家下川と並行して流れる西大排水路で実施された「魚のすめる水路を作ろう」計画で実施された魚類・水生動物調査について報告されました。

9. その他

- ・2020年12月発行の矢作川流域圏懇談会10年誌の活用について、配布状況や今後の展開について話し合いました。
- ・矢作川感謝祭（9月）と三河湾大感謝祭（10月）について、今年度の開催等について状況が説明されました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●バスツアーの内容について

- ・時瀬地区での置土実験の結果が出ると思うので、バスツアーでその話しができるとうよい。(内田)
- ・山で水が出て、途中のダムで水を溜め、洪水を通過させるという流域治水的な観点をカバーできるとよい。(鷺見)
- ・安永川トンネルでの治水の説明に合わせて鵜の首狭窄部改修について説明するとよい。(鷺見)
 - ▶ 鵜の首を案内する時は、左岸側にある展望台で説明している。(事務局)
 - ▶ 竜宮橋近くの堤防の所から、「山がこれだけなくなる」とかの話しをするなど。(鷺見)
- ・基本的には現計画で進めるが、その他候補なども含め再検討する。(内田)

●マイクロプラスチック公開講座について

- ・いろんな方々に公開講座を知っていただくためにも、各人が所属する団体やその会員に広めていただきたい。(光岡)
- ・「マイクロプラスチックがどこから出てきているのか」については、みなさん興味があると思う。(内田)
- ・マイクロプラスチックの種類やソースなどから、流域や支川・本川・海の繋がりを意識できるとよい。(鷺見)
- ・河川事務所のHPに「ごみマップ」が掲載されているが、矢作川と豊川にはごみの登録がない。(野田)
 - ▶ 豊川や矢作川は、河川と堤内地の距離があるのでごみが意識されない。大量のごみがあるはず。(近藤)
 - ▶ マイクロプラスチックは海岸だけで川にはないと言われていた。実際は、川にも大量にある。(近藤)
- ・マイクロプラスチックの有害性については、現時点で結論は出ていない。講座で議論できるとよいと思う。(近藤)

●時瀬地区における置土実験について

- ・置土実験により何を把握したいのか、何の影響を見たいのかなど目的がわからない。(溝口・近藤・鷺見)
 - ▶ 下流側への影響を把握し、土砂バイパスの運用方法や総合土砂管理計画への反映などを考えている。(事務局)
- ・矢作川は何が問題で、どう解決しなければならないのかを明確にし、対策や土砂管理を考えていく必要がある。その場その場ではなく、将来像をみすえて全体を動かすような協議をしていくとよい。(溝口)
- ・置土して流れていくということしか見えないので、目標などをわかりやすく示すほうがよい。(近藤)
 - ▶ 置土実験の結果とシミュレーションモデルなどから、適切な対策・運用の計画に反映させる。(事務局)
 - ▶ 矢作川流域での土砂供給可能量や通過土砂量などから検討できるようデータ整理していく。(事務局)
- ・土砂供給が増えることにより、川の像がどのように変化するかという話しまで議論できるようになるとよい。(鷺見)
- ・国土交通省、愛知県、矢作川研究所により各種実験が行われてきたが、それらを総説した研究があるとよい。(内田)
- ・漁協は「淵が埋まるのではないかと心配している。それに関するデータは必要と思う。(内田)
- ・底生動物と地形の変化、川の複雑な地形と土砂の関係などの研究が役に立つと思う。(内田)

●矢作川水系流域治水プロジェクトについて

- ・「被害対象を減少させるための対策」の土地利用規制・誘導に着手しようとしている自治体はあるか。(鷺見)
 - ▶ 豊田市と岡崎市で土地利用規制や住まい方の工夫などの計画見直しが行われると聞いている。(事務局)
 - ▶ 土地利用規制・誘導は重要と考える。浸水が想定されるところに新しい家が建てられてきている。(内田)
- ・流域治水を進めるにあたっての法整備はどのようなものか。(近藤)
 - ▶ まだ具体的な検討が進んでいないことから、流域に関する情報は持ち合わせていない。(事務局)
- ・流域治水と言いながら川の事業が大部分を占めている。土地利用など河川整備ではないところが重要と思う。(鷺見)
- ・流域治水として各施策をつなげて、矢作川全体の方向が見えるようにするとよい。(溝口)
- ・矢作川は大きな河川なので、洪水予報がしっかりできれば避難等の時間がかなりとれる。豊田市街から下流に対しては、時間情報が伝わるような対策を重点的に考えていただきたい。(鷺見)
- ・山間地の水田がほとんど無くなってきている。中山間地における水の水田貯留は再評価するほうがよい。(野田)



今後の予定

■第57回川部会WG

日時：令和3年8月17日(火) 午後 場所：鵜の首地区周辺・崇化館交流館 *詳細は後日お知らせします。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

